

一人一人が自分の課題をもって追求する活動

3年

# 『石鹼を作つてみよう』の実践

札幌市立幌南小学校 箕輪 澄子

## ◆単元のポイント~~~~~

「総合的な学習」と初めて出会う3年生です。楽しい体験的活動の中から、自分がさらに追求したい課題を見つけて欲しいと考えました。そして、一人一人が自分の課題について責任をもって追求し、成果を学級の仲間に返していく…。それが「総合的な学習」なのだという認識をもたせたかったのです。

まずは、子供たちが興味をもって取り組める内容、「創作的な活動」をと考えました。そして、子供たちの興味・関心がどこにあるかは、“自由研究ヒント集を作るためのアイディア募集”として探ることにしました。

長期休業中に取り組む自由研究と「総合的な学習」の違いは、どこにあるのでしょうか？私たちは次のように押さえ、出会いの機会にこれらを子供にも紹介したいと考えたのでした。

①同じ関心をもった子との共同活動が容易にでき、分担をすることによって自由研究よりも大がかりなことが出来る。

②学校の施設設備を活用できる。

③学校を拠点として様々な関係機関・施設からも情報を集められる。

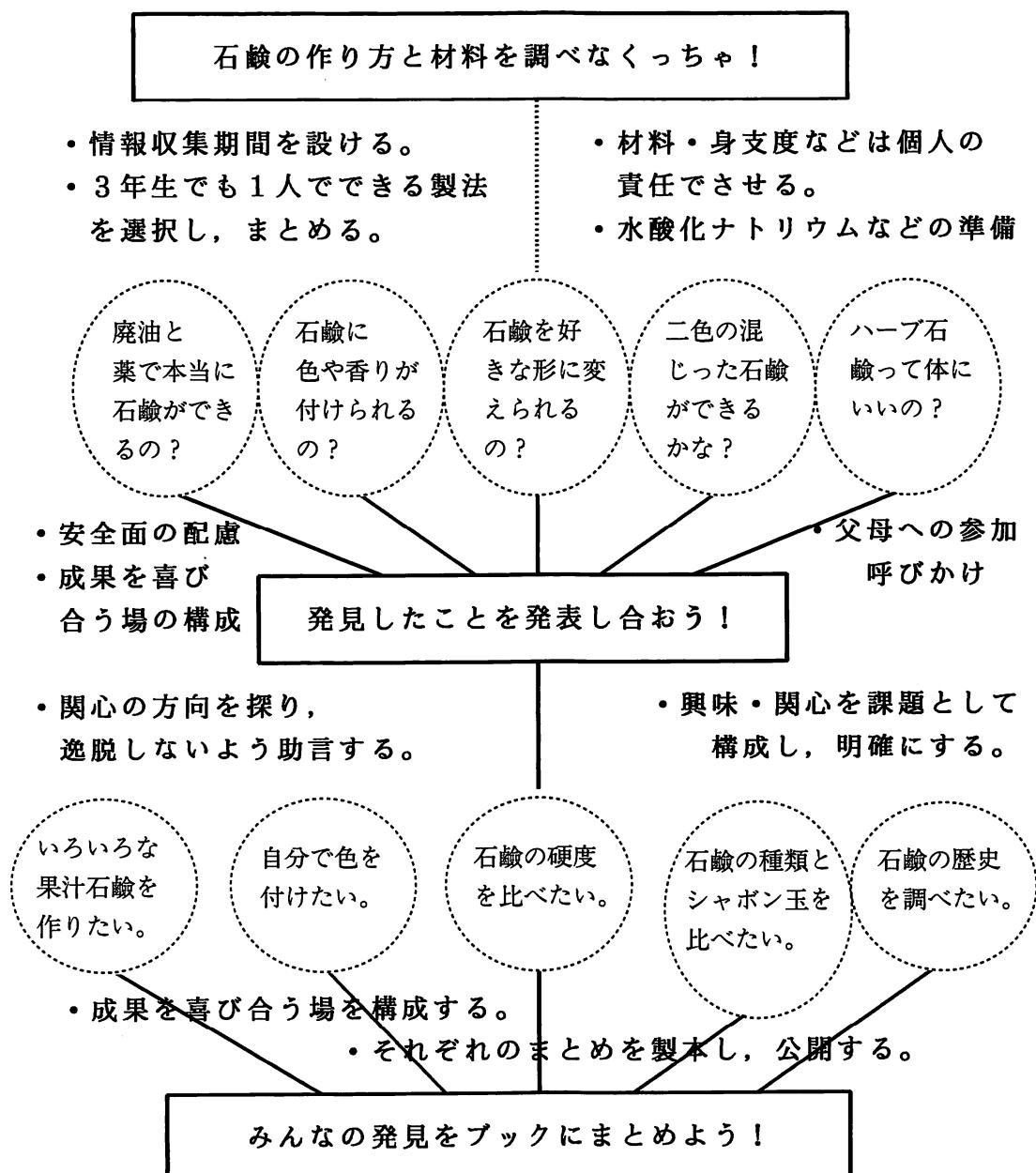
④先生や友達からの励まし・賞賛がすぐに得られる。

できあがったヒント集から「創作的な活動」3種を選び、子供と共に最終決定しました。それは、「石鹼を作つてみよう！」。子供たちの高い関心は、「ええっ？石鹼って、作った物だったの？」「自分で作れる物なの？」というものでした。

支援のポイントは、以下の通りです。

- ・作り方や材料・その分量などの情報収集を子供自身にさせる。
- ・情報収集は全員の子に経験させられないため、活動自体は完全に個々の作業とできるように活動場所や交代制を考え、タイムテーブルを組む。
- ・火を使うため、安全への配慮を十分にする。
- ・試行的な創作活動の後、一人一人が課題をもって取り組む時間を保障する。
- ・作つてみて分かったこと、興味が出てきて調べたことなどを個々にまとめ、形に残す。

## ◆単元の構成（30時間扱い）



## ◆実践するにあたって

3年生での実践だったので、石鹼成分の人体への影響、廃油を活用する方法としての環境保護へは発展していきませんでした。しかし、高学年の実践として扱うと、化粧品などへの発展、動物実験への賛否、植物成分への考察などへの発展が期待できるでしょう。